

企業インタビュー

株式会社リクルート

新卒事業本部 大谷康人

昨年、日本経団連によって新卒者の採用選考に関する企業の「倫理憲章」が一部見直された。それによつて、2013年度卒業生対象の就職活動は大きなスケジュール変更が行われた。この変更は、就活生にどのような影響を及ぼしたのか。また、これから始まる就職活動に向けて、学生はどう立ち向かえば良いのか。不安に感じている学生も多くいることだろう。そこで、今回我々は株式会社リクルート新卒事業本部の大谷康人さんに話を伺った。

Q 2013年度卒業生対象の就職活動について、スケジュール変更における影響などを教えてください。

A 既にご存知の方も多いと思いますが、2013年度卒業生対象の就職活動より10月1日より12月1日に変わりました。従来であれば、10月1日からのスタートを皮切りに、企業訪問、説明会への参加、企業同士の比較や取捨選択等をじっくりと行い、その後のエントリーシートや4月からの本格的な選考期間に備えます。しかし、今回広報活動開始日が12月1日となつたにも関わらず、選考時期が4月と従来と変わらなかつたので実質企業と学生が接できる期間が約6ヶ月から4ヶ月に圧縮。結果かなり慌しいスケジュールを強いられた就職活動生が多かつたのではないかと考えられます。

Q 2014年度卒業生対象の就職活動の動向について教えてください。

A 就職活動の流れに関しては、

Q 企業を選ぶポイントを教えてください。

A 同じ業界、同じ職種であつても、企業が違えば仕事に対する考え方が違うこ

ともあります。例えば、SEという職種一つとつても、金融系のSEなのか、ゲーム制作会社のSEなのか、どんなものを構築し誰に対して提供するサービスなのかで社風や仕事に対する考え方・求められるスキルが違ってきます。

Q 大学院に進学することについて教えてください。

A 大学院に進学することにはメリットとデメリットがあります。就職活動において有利に働きますか。

A 一概には言えません。ただ一言お伝えしたいこととして「就職に有利か不利か」という基準のみで進学の可否を判断しないこと、です。例えば具体的な「将来〇〇という業界(企業)で△△という仕事をしたい」という研究を行い、専門性を深める必要がある」というように明確な目的意識があつて進学するのであれば企業は評価するでしょう。事実企業によつては、研究開発部門で活躍するためには、在学中にこれからの専門性とスキルは修めて欲しい、など基準を設けている企業もあるので、明確に照準を合わせるのであれば進学することはプラスに働きます。あるいは、早く社会に出て経験を積みたくて就職をした方がその人にとつて良いケースもあります。みなさんの夢や将来就きたい仕事、実現させたいこと、それを叶えるためには何が必要なのか、そこから考えると自ずと答えはでるのではないのでしょうか。ぜひ一人では悩まず、周囲の先生や先輩、時には卒業された社会人に相談して考えて欲しいです。

Q 専攻する分野以外への就職活動について注意すべき点はありますか。

A 勉強してきた専門分野を直接生かせなくても、これまで経験してきた研究のプロセス、自分の体系的な思考観念がどのように仕事に生かせるのかを、明確に提示できることが必要だと思います。また、畑違いの職種であればあるほど、その仕事に対する理解はしておいたほうが良いです。単にイメージだけで仕事を選んでしまうと、入社後にギャップが生まれてしまいがちです。

Q 自己分析の仕方について教えてください。

A 自己分析とは一般的に「自分の過去を振り返り、志向や行動の傾向を探る」というやり方がポピュラーですね。

ただ、それ以外にも「企業を見ながら自分の価値観に触れる」自己分析もありです。これからみなさんは様々な企業と出会うかと思いますが、中には興味を持てる企業もあればそうでない企業もあるでしょう。「何だかおもしろそうだな」「気に入った」はたまた「今一つ興味を持てなかった」

Q 面接での注意点を教えてください。

A 面接では緊張を解き、リラックスして話を聞かせることが大切です。質問に対しては、質問されたこと以外に「質問に答えること」ではなく「質問に答えて、かつ、自分自身の考えや経験などを伝えること」を意識してください。

Q 理系の学生は就職活動において、理系の強みをどう生かすことができますか。

A 現在様々な企業で、PLAN(計画)→DO(実行)→CHECK(検証)の思考が注目されています。理系学生は研究や実験の過程で、計画と仮説を立て、実証をして、振り返りに生かしていくというプロセスを経験してきているので、このPDSの思考が自然と身につくというケースが多いのではと私は考えます。

Q 企業はどういう人材を求めていますか。

A 先程のPDSの志向はもちろんです。それに加えて「学ぶ姿勢を持つ人材」だと思えます。ただ単純にデスクに向かつて考え続けることだけが学ぶ姿勢ではありません。社会では、自分と年齢の近い若手人材もいれば、今まで出会ったことのないようなベテラン層まで、様々な人々と協力して働きます。きちんとパフォーマンスを発揮できる人材になるためにも、仕事を円滑に進めていくためには、色んな人にアドバイスを求め、吸収する姿勢をまずは身につけておくことが大切なのではないでしょうか。



▲取材に協力していただいた大谷さん

例え漠然であつても色々な印象を抱くはずですが、その際、そう感じた「理由」を具体的に言葉や文章に表してみても共通項を探っていくと、自分自身が何を重要視しているのかが見えてくるケースもあります。これまでに業界や仕事内容で選んでいったが、実は「働いている人」で判断している自分があるな、など気付けていなかった自分の価値観や軸をはっきりさせることができず、ずつと机に向つて自分の過去と向き合い続けるのも大変なもの。そんな時は外に出て色んな企業の話聞いてみましょう。

また、近年は自己分析に関するアセスメントも充実していますので、それらを活用して新たな自分の可能性に触れるというのにも有効でしょう。リクナビの中にも「リクナビ診断」という自己分析コンテンツがあり、相手は「人」であり求められることは人と人のコミュニケーションです。会話のキャッチボールがちゃんとできていくかどうか、そこを意識してください。

面接において、理系の強みをどう生かすことができますか。

A 現在様々な企業で、PLAN(計画)→DO(実行)→CHECK(検証)の思考が注目されています。理系学生は研究や実験の過程で、計画と仮説を立て、実証をして、振り返りに生かしていくというプロセスを経験してきているので、このPDSの思考が自然と身につくというケースが多いのではと私は考えます。

Q 企業はどういう人材を求めていますか。

A 先程のPDSの志向はもちろんです。それに加えて「学ぶ姿勢を持つ人材」だと思えます。ただ単純にデスクに向かつて考え続けることだけが学ぶ姿勢ではありません。社会では、自分と年齢の近い若手人材もいれば、今まで出会ったことのないようなベテラン層まで、様々な人々と協力して働きます。きちんとパフォーマンスを発揮できる人材になるためにも、仕事を円滑に進めていくためには、色んな人にアドバイスを求め、吸収する姿勢をまずは身につけておくことが大切なのではないでしょうか。

Q 企業を選ぶポイントを教えてください。

A 同じ業界、同じ職種であつても、企業が違えば仕事に対する考え方が違うこと

ともあります。例えば、SEという職種一つとつても、金融系のSEなのか、ゲーム制作会社のSEなのか、どんなものを構築し誰に対して提供するサービスなのかで社風や仕事に対する考え方・求められるスキルが違ってきます。

Q 大学院に進学することについて教えてください。

A 大学院に進学することにはメリットとデメリットがあります。就職活動において有利に働きますか。

A 一概には言えません。ただ一言お伝えしたいこととして「就職に有利か不利か」という基準のみで進学の可否を判断しないこと、です。例えば具体的な「将来〇〇という業界(企業)で△△という仕事をしたい」という研究を行い、専門性を深める必要がある」というように明確な目的意識があつて進学するのであれば企業は評価するでしょう。事実企業によつては、研究開発部門で活躍するためには、在学中にこれからの専門性とスキルは修めて欲しい、など基準を設けている企業もあるので、明確に照準を合わせるのであれば進学することはプラスに働きます。あるいは、早く社会に出て経験を積みたくて就職をした方がその人にとつて良いケースもあります。みなさんの夢や将来就きたい仕事、実現させたいこと、それを叶えるためには何が必要なのか、そこから考えると自ずと答えはでるのではないのでしょうか。ぜひ一人では悩まず、周囲の先生や先輩、時には卒業された社会人に相談して考えて欲しいです。

Q 専攻する分野以外への就職活動について注意すべき点はありますか。

A 勉強してきた専門分野を直接生かせなくても、これまで経験してきた研究のプロセス、自分の体系的な思考観念がどのように仕事に生かせるのかを、明確に提示できることが必要だと思います。また、畑違いの職種であればあるほど、その仕事に対する理解はしておいたほうが良いです。単にイメージだけで仕事を選んでしまうと、入社後にギャップが生まれてしまいがちです。

Q 自己分析の仕方について教えてください。

A 自己分析とは一般的に「自分の過去を振り返り、志向や行動の傾向を探る」というやり方がポピュラーですね。

ただ、それ以外にも「企業を見ながら自分の価値観に触れる」自己分析もありです。これからみなさんは様々な企業と出会うかと思いますが、中には興味を持てる企業もあればそうでない企業もあるでしょう。「何だかおもしろそうだな」「気に入った」はたまた「今一つ興味を持てなかった」

Q 面接での注意点を教えてください。

A 面接では緊張を解き、リラックスして話を聞かせることが大切です。質問に対しては、質問されたこと以外に「質問に答えること」ではなく「質問に答えて、かつ、自分自身の考えや経験などを伝えること」を意識してください。